



自転車社会の環境改善を目指して No.33

## 小さなまちの大きなとりくみへの第一歩

文

特定非営利活動法人 自転車活用推進研究会 会員 三浦 清洋  
 公益社団法人日本交通計画協会 交通計画研究所 企画室長

事務局：〒 141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-1 自転車総合ビル 4 階  
 TEL 080-3918-2932  
 URL <http://www.cyclists.jp/>



### はじめに

私は公益法人の職員として、自転車を含む都市交通に関する研究・計画・事業実現の促進に携わりながら、個人として、自身の住む神奈川県逗子市という人口約6万人の小さなまちにおいて、地域住民による自主的な活動である「歩行者と自転車のまちを考える会」に参加し、年間数回のイベント等での市役所との協働を通して、徒歩で安心して暮らせるまち、自転車が正しく快適に使えるまち、ひいては過度に自動車に依存しないでくらせるまちの実現を目指した活動をおこなっている。今回は、縁がありご依頼いただいたので、この小さなまちの取り組みについてご紹介させていただく。

### 歩行者と自転車のまちを考えると

本会は、逗子市まちづくり基本計画(2007年策定)に掲げられた「歩行者と自転車優先のまち」実現のため、有志により2008年10月に設立された市民団体。自動車中心から歩行者と自転車優先に変更するため、市民向け啓発活動と市に対する提言を通して、健康的で環境に優しい循環型社会としての逗子を目指している。もともと、多くの道路が歩道も充分にはなく、当然のことながら自

転車は車道を走る事が必然となる宿命の小都市。そのような厳しい条件で微力ながらも諦めずにつづけている活動をご紹介します。

### 継続は力なり：定期的な活動

設立から6年、毎年毎年同じ時期に、繰り返し開催・実施している活動を次に紹介する。これらは、基本毎年趣を変えずに実施しているが、市民や周辺都市からの反応など、まさに継続は力なり、を実感することが多くなってきている。

#### ① ツール・ド・逗子

「ツール・ド」と銘打っているが、「地域の魅力の再認識」していただくスタンプ・クイズラリー形式のイベント。時間を競うのではなく、ちょっと停まれる自転車の自由度を活かし、クルマではわからないちょっとした地域の魅力を探訪してもらいながら、自動車での来訪者や地域の人々にも「逗子・三浦半島は、自転車がゆっくり走る地域なんですよ」ということの周知を深意としている。

例年、居住地、年齢、性別、国籍を問わず200名程度の多様な参加者を得ており、「歩いて参加したい」という声もいただくようになった。

毎年、逗子警察所の交通課にもご協力いただく自転車ルールの「安全

講習」をスタートポイントとしている。その会場である逗子亀岡八幡境内では、多様な自転車の展示をおこなうサイクルフェスタを開催するなど、緑の木漏れ日のなか、とても良い雰囲気である。

昨年は、本誌発行元のサイカパーキングの協力もいただき「自転車は車道の左側。煽らないでね」ということをアピールする黄色いビブスを作成し出場者に着ていただいた。



#### ② カーフリーデー

本イベントは、フランスのラ・ロッシュェルで1997年に始まり、その後欧州、世界へと拡大、モビリティウィークへと発展したものである。目的は、大気汚染の問題を認識する、人や自転車の空間を優先する、公共交通を推進し強化する、地域の資産を再認識する(〈一社〉カーフリーデージャパンWebサイトより)。逗子も(おそらく)世界でもっとも小規模な参加チームとして、2009年より積極的にすすめてきた。とはいえ、実質10名程度のメンバー中心での活動なので、い

きなり市内へのクルマ流入を止めることまではできない。市役所との協働、交通安全協会や他の市民団体、そして地域の商店街組織の協力をいただきながら啓発活動をおこなってきた。

過去には、カーフリーデージャパン望月真一氏、自転車ツーキニスト正田智氏やドイツの自転車・地区交通の専門家エルファディング・ズザンネ氏を招いた講演会を開催し啓発につとめてきた。2013年は「停めて歩いてお買いもの」と題し、商店街にご協力いただき臨時駐輪場を設け、それらを含めた「駐車場・駐輪場マップ」を作成。当日は、駐輪場への誘導を図るとともにアンケート調査を実施。目的は、適正な駐輪・駐車を促すことでの歩行を阻害する迷惑駐車の排除、そして来街者の快適な自転車利用環境の創出のための下地作りである。

アンケートでは、本誌でもおなじみの古倉宗治先生のご助言もたまわりながら、「どれぐらいの距離で駐輪場が必要か」などの意向を確認した(結果は本会Webサイトを参照)。このようなアクションを行うことで、利用者、地域商店街、公共の意識付けを意図している。

### ③子ども自転車教室

今年で、3回目をむかえたこのイベントは、「逗子子どもフェスティバル」のイベントとして、逗子小学校の校庭に大型の教習コースが出現！本物のお巡りさんが信号機をもってきてルールを徹底指導！また、プロのお兄さんによる上手な乗り方指導



で余裕をもった運転技術の習得。さらにバランスバイクコーナーで「初めて乗れた」というお子さんが毎年10名ほど。子どもたちの人気が高く、また、大人への正しい知識を子供を通じて伝える好機となっている。

## 魂をいれる取組み：役所、地域の他団体、事業者との協働

### ○「歩行者と自転車を優先するまちアクションプラン」策定

本活動は、「歩行者と自転車を優先するまち」を掲げる逗子市の取組みとの協働である。当会の他、逗子市環境会議二酸化炭素削減部会や逗子市交通安全協会なども参加し、逗子市役所の環境、建設、生活安全などの部局が参加したワークショップ形式でアクションプランを平成26年3月に策定した(詳細は市役所のWebサイト参照)。

本計画は、限られた資源、人材、体制の中で、どのように課題に対応するかを、市民と協働で構築してきたところにポイントがある。これからは、いよいよ具体的に結ぶアクションの実行の時となっている。

2014年9月には、本計画のキックオフシンポジウムを市役所で開催。埼玉大学の久保田教授をゲストに、住民、地域の事業者団体、交通管理者、公共交通・バス事業者などの参加により、みんな



逗子市の歩行者と自転車のまちシンボルマーク

とにより、みんなという前向きな

確認の場となった。

### ○市民参加の交通実態調査

これらに関連して2013年には、埼玉大学久保田研究室の指導のもと交通実態調査を、市民が調査員となって行った。まずは地域の交通の実態を、地域の人々と一緒になって確認しようという取り組み。事後の発表会では、バスの定時性確保などが住民からの意見で課題としてあがった。

### ○三浦半島首長サミット

2013年には、三浦半島の4市1町の首長による「三浦半島サミット」が推進する事業のひとつとして自転車が取り上げられ、前述のツール・ド逗子も認定事業となった。交通は市域では完結しないものなので、今後、三浦半島という魅力ある地域での一体的なとりくみが期待できる。

## 今後の展開と発展の可能性(願望)

これからも、硬い理念と、柔らかな活動で、少子高齢化、エネルギー、環境など今後の課題山積の日本の社会問題、都市交通問題に対してちいさなまちからアプローチしていきたいと考えている。

ここまでお読みいただいた皆様にも、是非「歩行者と自転車のまちを考える会」でWebを検索して、伝えきれていない活動の趣旨をご覧いただくとともに、今年も6月7日に開催予定のツール・ド・逗子にご参加いただき、逗子・三浦半島の魅力を満喫いただきながら、来訪者の視点で、この地域の歩行者と自転車を大切にす取組みに対し叱咤激励で後押しをしていただければ大変幸いです。PP



#### 「自転車検定」を始めました

インターネットで、いつでも受験できる「自転車検定」サイトを設けました。

無料のお試し検定も行っています。自転車活用推進研究会のホームページ(<http://www.cyclists.jp/>)からどうぞ。